

平林金属、岐阜プラスチック工業

廃家電樹脂で吸音パネル 既製品と機能変わらず

野)は、物流資材など製造の岐阜プラスチック工業(岐阜市)と共同で、廃家電からリサイクルした樹脂を使った吸音パネルを商品化した。

工場のプレス機や破砕機などの周囲に設置するパネルで、片面に無数の微細な穴があり、内部は蜂の巣のように六角形に仕切った空洞が並ぶハニカム構造。穴から入った音波を空洞部で減衰させ、騒音を抑える。厚さは18ミリ。縦横のサイズは注文に依る。1平方メートルあたり1万1千円。

同工業は2017年から吸音パネルを製造しているが、リサイクル材の使用は初めて。環境面での付加価値を高めようと、再生資源の用途拡大に取り組む平林金属と共同で企画した。機能は既製品と変わらないとい

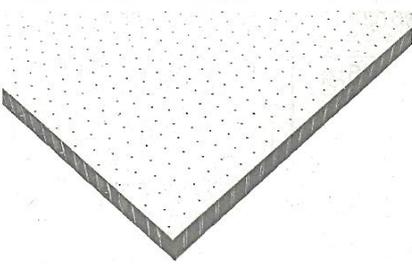
平林金属が回収、破

砕した洗濯機やエアコンなどのスクラップから、強度や柔軟性の高い樹脂・ポリプロピレンを分別。岐阜プラスチック工業が他の素材と配合してハニカム構造の部材に成形し、パネルに仕上げる。

平林金属は「樹脂スクラップは国内での有効活用が課題になっていく。今後も新たな用途を開拓したい」とし

ている。同金属は1960年設立。資本金9980万円。売上高134億円(2020年12月期)。従業員390人。

岐阜プラスチック工業は53年設立。資本金2億1100万円。連結売上高978億円(21年3月期)。従業員約2400人。(伊東圭一)



【上】吸音パネルの施工例。機械の周囲に設置して騒音を抑える【下】吸音パネルの内部(黒い部分)にリサイクル樹脂が使われている

リサイクル業の平林金属(岡山市北区下中